

いのうざわ
稲生沢川水系河川整備基本方針
流域と河川の概要
治水計画概要・正常流量概要

静岡県



【静岡県】 稲生沢川水系：流域と河川の概要（1）

流域と河川の概要

下田市の人口：**23,789人**
 （※平成26年度7月1日時点）
 流域面積：77.0km²

いのうざわ がわ
 稲生沢川(15.10km)

- ひらなめ がわ 平滑川(0.76km)
- しきね がわ 敷根川(0.79km)
- れんたいじ がわ 蓮台寺川(1.35km)
- いなずさ がわ 稲梓川(5.00km)
- すごう がわ 須郷川(2.00km)



▶ 稲生沢川は、那賀川流域との分水嶺である娑婆羅山に源を發し、支川と合流しながら下田市をほぼ真東に貫き、稲梓川と合流した後にほぼ真南に進路を変え、下田港へ注ぐ二級河川である。

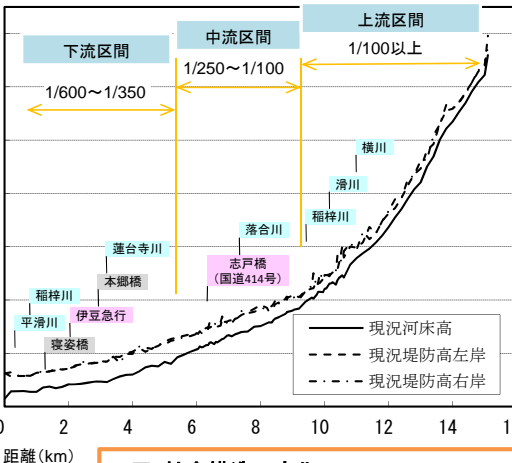
▶ 下流部は1/600~1/350程度の緩勾配であり、下田市の中心部で宅地が広がっている。中流部は勾配が1/250~1/100程度で、周囲は主に農地として利用されている。稲梓川合流点より上流は1/100以上の急勾配である。

▶ 稲生沢川水系の流域の大部分は起伏量が200~600mと比較的大きな中起伏山地に占められている。

▶ 地質は、中~上流域の大部分が白浜層群に占められており、流路が大きく変わる箕作から下流では湯ヶ島層群の占める割合が多い。白浜層群と湯ヶ島層群は、新第三紀中新世の海底火山噴出物であり、安山岩と凝灰岩が混在している。



稲生沢川の河川縦断勾配



稲生沢川流域の地質
 資料：1/50,000土地分類基本調査（表層地質図）



社会構造の変化

▶ 流域内人口は昭和53年の約2.2万人をピークに減少に転じ、平成26年では約1.5万人となっている。世帯数は平成9年の約75世帯をピークに減少に転じ、平成26年の総世帯数は約72世帯となっている。

▶ 流域の産業別就業人口は、第三次産業である卸売・小売業、飲食店・宿泊業が多い。農業では、河川沿いで稲作が行われているほか、観光との連携が強化されている。

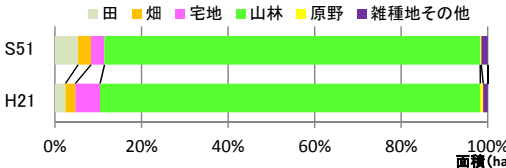
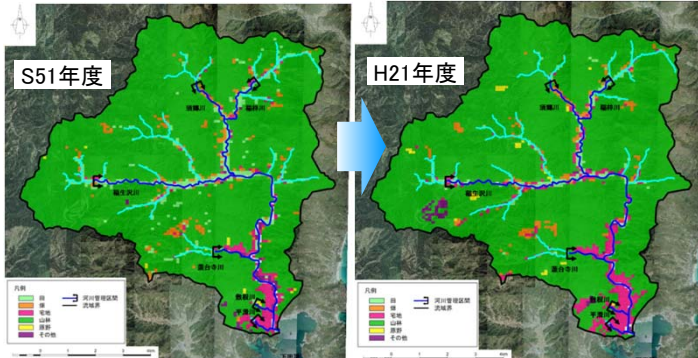
土地利用の変遷

▶ 稲生沢川流域は、山林が約9割を占め、下流平坦部には下田市の中心市街地が位置している。

▶ 古くから観光地として発展してきた。特に、昭和36年に伊豆急行が開通してから、流域内の開発が急激に進み、昭和50年代以降は下流部の市街地が拡大した。

▶ 下田市の中心地など流域内の市街地は稲生沢川下流部の周辺に集中しており、これより上流は田畑および林野としての利用が主である。

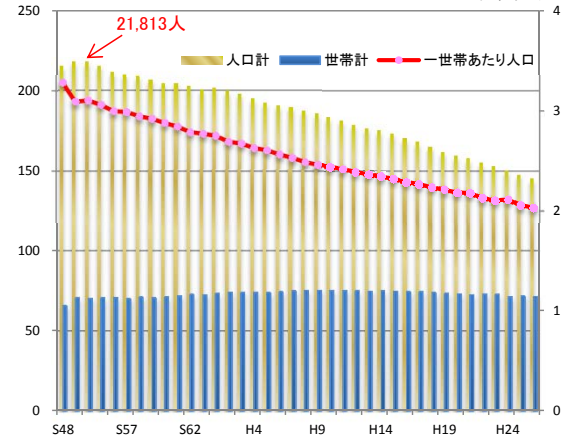
土地利用の変化



区分	田	畑	宅地	山林	原野	その他	合計
S51	389	218	226	6,310	18	108	7,269
H21	177	165	416	6,391	49	77	7,275

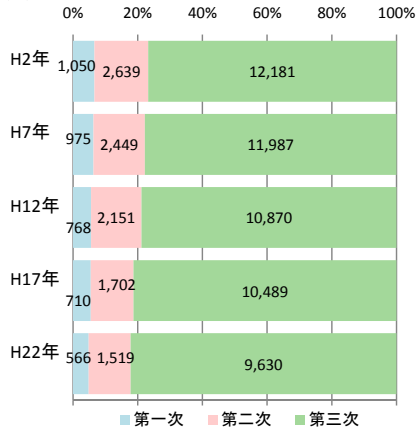
単位：ha

人口・世帯数



図・稲生沢川流域における人口・世帯数の推移 資料：下田市提供資料

産業別人口



図・産業別就業人口構成比
 ※数字は構成人口(人) 資料：H23下田市統計書

【静岡県】 稲生沢川水系：流域と河川の概要（2）

治水の概要

過去の被害実績

- ▶昭和51年7月10日の豪雨では、約200haが浸水し、床上浸水1,372棟、床下浸水539棟などを被った。
- ▶平成3年9月の豪雨では、下流部の降雨量は少なかったが、上流の山間部で大雨が降り、落合地区で土砂崩れなどが発生した。
- ▶近年は、外水による被害は少なく、内水による被害実績が多くなっている。



【昭和51年洪水】本郷橋下流



【平成3年洪水】降雨状況



【平成3年洪水】落合地区

治水事業の沿革

時期	事業名	改修区間	備考
S16~S24	災害助成	旧稲生沢村～旧下田町	S15年洪水時に浸水被害
S51~S56	河川激甚災害対策特別緊急事業	河口部(0/759)～立野地先(5/540)までのL=4.8km	S51年洪水時に浸水被害
S51	51年発生災害改良復旧事業	稲梓川合流部(9/077)付近	S51年洪水時に浸水被害
S60	-	-	工事実施基本計画策定
H1~H5	治水特別対策(特定地域調整河川整備)	志戸橋(6/377)～落合浄水場(6/650)	第1期
H3~H5	河川災害関連事業	落合浄水場(6/650)～落合橋までのL=581m	H3.9.10～11の豪雨災害
H6~H8	治水特別対策(災害関連緊急促進)	落合川上流部～稲梓川合流部(9/077)までのL=850m	第2期
H18~	河川改良(県単独)	稲梓川合流部(9/077)より上流	-
H21~H22	緊急豪雨対策(県単独)	稲梓川合流部(9/077)より上流	-



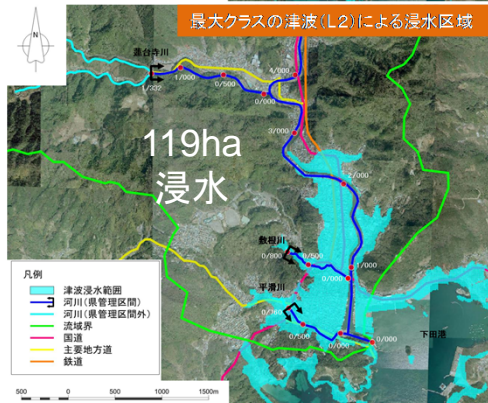
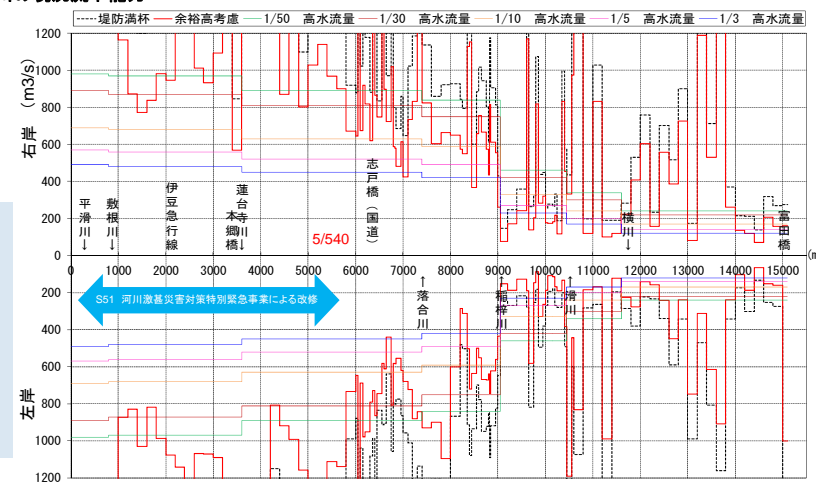
津波被害と対策

- ▶過去の津波被害に関しては、安政東海地震により約7mの津波が発生し、937戸が流出し、122人が水死した。
- ▶一部の海岸防潮堤はT.P.+4.0mで整備されているが、河口部は開口部となっている。
- ▶静岡県第4次地震被害想定では、下田港における「施設計画上の津波高」はT.P.+4.4mとしており、「施設計画上の津波」は河川堤防を越えて約1.7km遡上するとともに、「最大クラスの津波」では河川及び海岸堤防を越流し、沿岸部で約120haの浸水が想定されている。



- ▶下流部においては、S51年の洪水を契機に改修が行われている。
- ▶稲梓川合流付近、落合川合流後の地点で流下能力が不足している。

稲生沢川の現況流下能力



利水の概要

稲生沢川水系の水利権

慣行水利権一覧				
施設番号	河川名	施設名	受益面積(ha)	取水量(m ³ /s)
1	稲生沢川	石原坂用水	3.00	-
2	"	志戸松尾堰	3.40	-
3	"	本郷区用水	13.20	-
4	"	湯原堰	5.00	-
5	"	相玉頭首工	6.60	-
6	"	大古隔用水	0.30	-
7	"	堀之内用水	3.00	-
8	"	宇土金用水	7.00	-
9	"	入沢堰	2.20	-
10	"	荒宿用水	4.50	-
11	"	どうで用水	1.00	-
12	稲梓川	箕作中堰用水頭首工	11.00	-
13	"	苅場用水	1.00	-

許可水利権一覧		
施設番号	河川名	取水量(m ³ /s)
1	稲生沢川	0.34

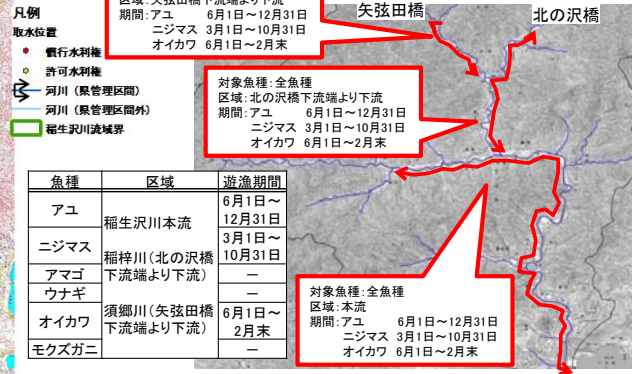
- ▶稲生沢川には許可水利権として水道用水1件、慣行水利権として農業用水13件の利用がある。

図・稲生沢川水系の取水施設



稲生沢川の漁業権

- ▶稲生沢川では、第5種共同漁業権が設定されている。



【静岡県】 稲生沢川水系：流域と河川の概要（3）

環境の概要

□ 稲生沢川の自然環境

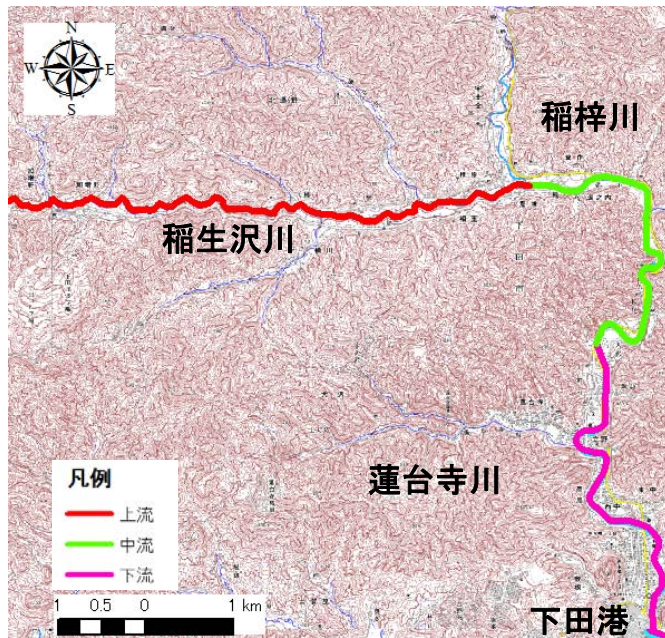
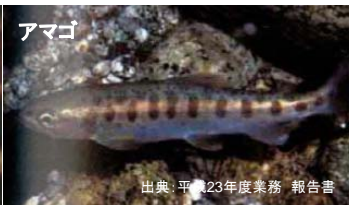
▶ 稲生沢川流域では、シマイサキやボラなどの汽水・海水魚の他、環境省や静岡県レッドリストに掲載されたアマゴ、アユカケ（カマキリ）、シロウオ、クイナ、キンラン、ユビナガゴモリなどの希少種、特定外来生物のナガエツルノゲイトウなどが確認されている。

上流部

河道に山林が隣接している。砂州にヨシが繁茂している。

主な生息魚類
ウグイ、オイカワ、アブラハヤ、スマチヂブ、コイ、フナ、アユ、ハヤ

流域の希少種
魚類：アマゴ、鳥類：クイナ、アリスイ、コシアカツバメ、植物：キンラン



中流部

道に山林が隣接し、砂州にヨシが繁茂している。沿川の一部には桜並木が整備されている。

主な生息魚類
コイ、オイカワ、ウグイ、アブラハヤ、アユ、ニジマス、マハゼ、グッピー、カワズメ

流域の希少種
魚類：アユカケ、タカハヤ、カワアナゴ、ニホシウナギ、ドジョウ、カワムツ、キンブナ
鳥類：クイナ、アリスイ、コシアカツバメ、植物：コギシギシ、アズマギク



外来種

流域の外来生物

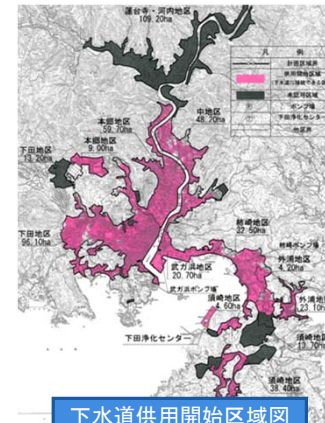
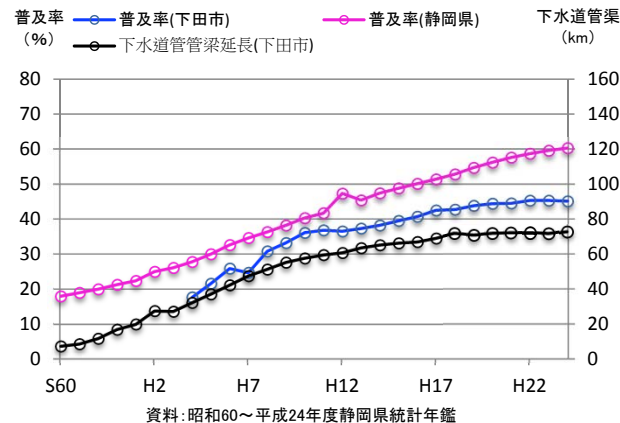
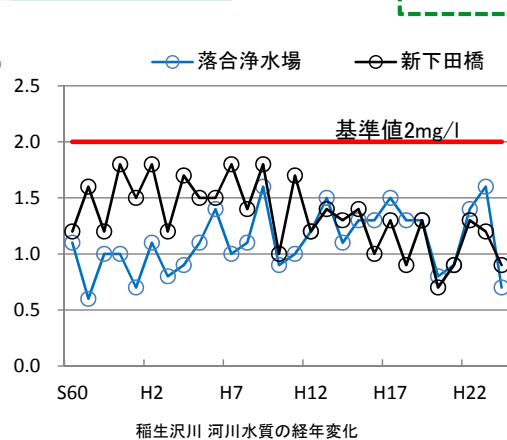
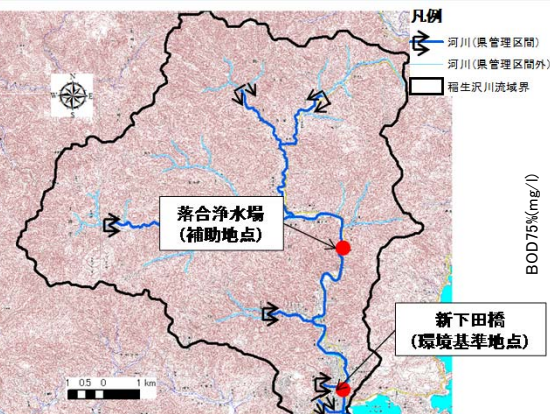
要注意外来生物：
グッピー、カワズメ

特定外来生物
ナガエツルノゲイトウ



□ 稲生沢川の水質状況

▶ 稲生沢川の河川の水質は目標値のA類型（BOD2mg/l）を満足している。
▶ 下水道普及率は、約45%で静岡県平均の60%よりも低くなっている。

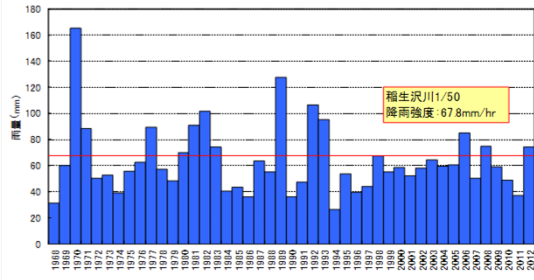


【静岡県】 稲生沢川水系：治水計画（河道計画）の概要（1）

1. 計画諸元

水系名	稲生沢川水系
計画規模	年超過確率 1/50
計画降雨強度	67.8mm/hr
洪水到達時間	河口:138分 本郷橋:111分
計画基準点	本郷橋地点

■ 年最大2時間雨量（石廊崎観測所）



■ 静岡県における計画規模決定の指標

評価指標	各指標の上限值			稲生沢川に適用	
	1/30	1/50	1/100	指標	確率規模
基準重要度C級	1/30	1/50	1/100	77.0	1/50
基準重要度D級	1/30	1/50			
流域面積 (km ²)	50	600	600以上	42	1/30
氾濫区域面積 (ha)	1,000	20,000	20,000以上	0.74	1/30
想込区域	人口 (千人)	30	250	250以上	175.5
	資産 (億円)	300	30,000	30,000以上	

2. 河川の整備の基本となるべき事項

(1) 基本高水並びにその河道への配分に関する事項

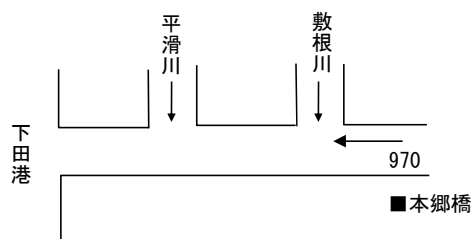
基本高水のピーク流量は、既往の洪水や河川の規模、流域内の資産・人口等を踏まえ、県内の他河川とのバランスを考慮し、年超過確率1/50の規模の降雨による洪水を対象として、本郷橋基準地点において970m³/sとし、これを河道へ配分する。

基本高水のピーク流量等一覧表 (単位: m³/s)

河川名	基準地点	基本高水のピーク流量	河道への配分流量
稲生沢川	本郷橋	970	970

(2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項

計画高水流量は、基準地点本郷橋(3.4k)において基本高水のピーク流量と同じ970m³/sとする。



計画高水流量配分図

(3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断面に関わる川幅に関する事項

基準地点における計画高水位及び計画横断面に関わる概ねの川幅は、次表のとおりとする。

河川名	地点名	河口からの距離 (km)	計画高水位 (T.P.m)	川幅 (m)	摘要
稲生沢川	本郷橋	3.4	5.66	51.0	基準地点

3. 河道計画

洪水処理方式は、河道改修によるものとする。

■ 平面計画

- 土地利用や沿川の状況を考慮し、現況河道法線を踏襲した法線形を設定。

■ 縦断計画

- 計画高水位は、下流の激特事業区間 (0k759~5k540)は既往計画 (工実) の計画高水位を踏襲、上流は堤内地盤高程度に設定する。
- 計画河床高は、堤内地盤高程度に設定した計画高水位から現況水深程度を確保するように計画する。
- 計画堤防高は、計画高水位に余裕高を加えた高さとした。

■ 横断計画

- 激特事業区間においては、人家連胆地区であるため河道拡幅は避けて根継ぎ+低水路部掘削により対応する。
- 激特事業区間より上流においては現況水深程度の河道整齊と河道拡幅 (片岸拡幅を基本とする) により対応する。
- 計画高水流量を計画高水位以下で安全に流下させる河積を確保する。



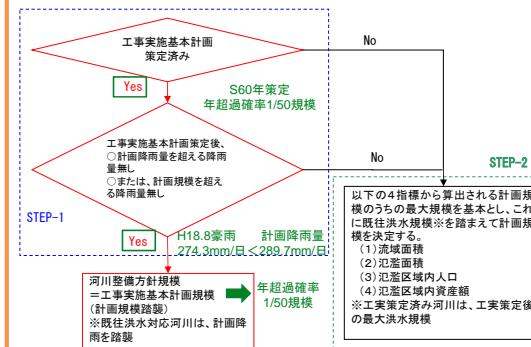
4. 津波対策

- 発生頻度が比較的高く、発生すれば大きな被害をもたらす「施設計画上の津波※1」に相当する計画津波に対しては、人命や財産を守るため、海岸等における防御と一体となって、河川堤防等の施設高を確保することとし、そのために必要となる堤防等の高上げ、耐震・液状化対策を実施することにより津波災害を防御するものとする。
- 発生頻度は極めて低いものの、発生すれば甚大な被害をもたらす「最大クラスの津波※2」に対しては、施設対応を超過する事象として、住民等の生命を守ることを最優先とし、地域特性を踏まえ、関係自治体との連携により、「施設計画上の津波」対策の実施に当たっては、必要に応じて堤防の天端、裏法面、裏小段及び裏法尻に被覆等の措置を講じるものとする

※1 施設計画上の津波：静岡県第4次地震被害想定で対象としている「レベル1の津波」



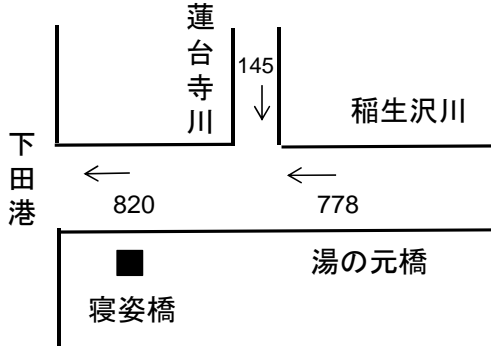
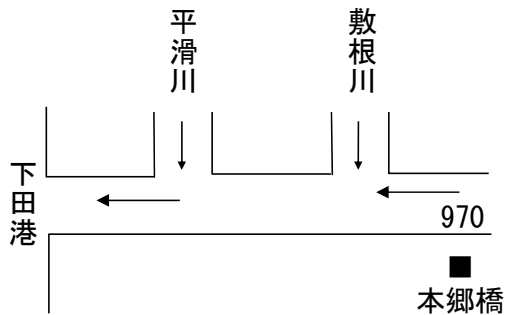
※2 最大クラスの津波：静岡県第4次地震被害想定で対象としている「レベル2の津波」

■ 静岡県における計画規模決定の手順 (稲生沢川流域)



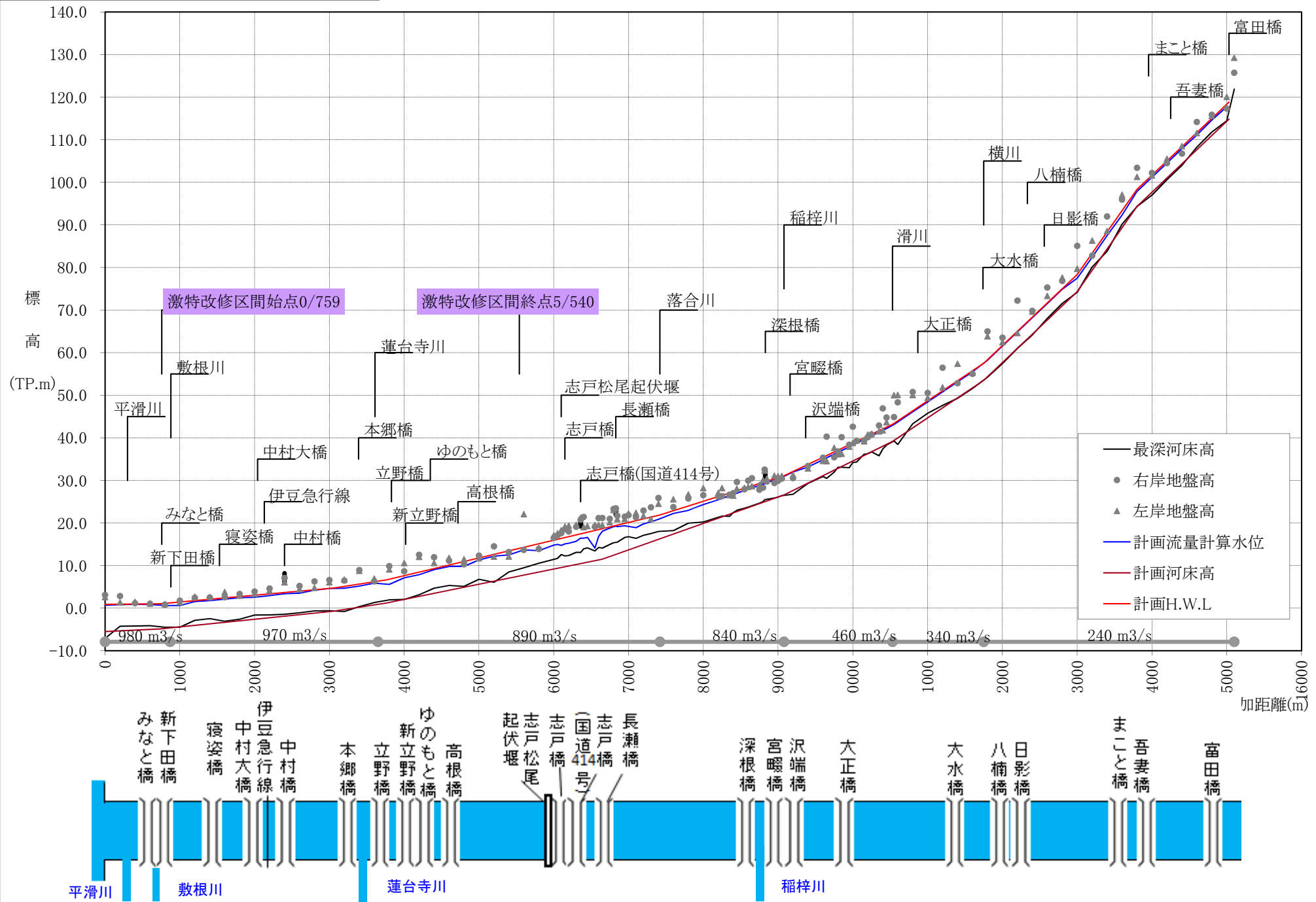
【静岡県】 稲生沢川水系：治水計画（河道計画）の概要（2）

工事実施基本計画(S60)と河川整備基本方針(案)の比較

項目	稲生沢川水系工事実施基本計画(S60)	稲生沢川水系河川整備基本方針(案)	備考(変更理由)
計画規模	1/50	1/50	
流域面積	74.4km ²	77.0km ²	最新の標高データを使用しGISにより精査
計算手法	合理式	合理式	
60分降雨強度	81mm/h	85.1mm/h	流域内の降雨を適切に反映した降雨強度式を作成
基準地点	<p>計画基準点：寝姿橋</p> 	<p>計画基準点：本郷橋</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 感潮区間（～2.5km）より上流を対象。 水位観測所が設置され、水文資料を取得可能。 家屋等の資産が下流に集積している。
流量配分			

【静岡県】 稲生沢川水系：治水計画（河道計画）の概要（3）

稲生沢川計画縦断面図



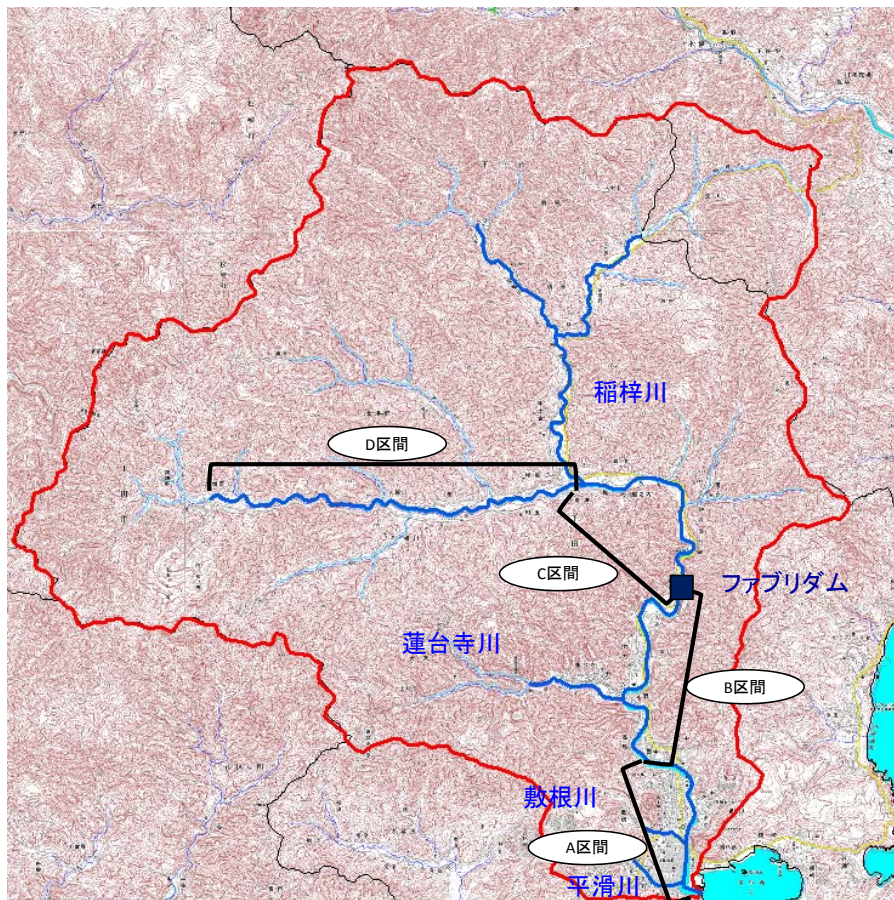
【静岡県】 稲生沢川水系：正常流量検討の概要（1）

低水管理上の目標流量として、「動植物の生息地又は生育地の状況」、「景観」、「流水の清潔の保持」を対象とし、必要流量の検討項目を設定

河川区分と代表地点

- 感潮区間、大規模な取水地点、主要な支川の流入地点や、河床勾配など、河川環境が大きく変化する地点を变化点とし、河川を4つの区間に区分した。
- 4つの区間の下流に位置するA区間は感潮区間であり、潮位の影響を受けるため検討対象外とした。
- 低水管理上の代表地点は、取水量が最も多いファブリダム（農業取水施設）上流の志戸橋地点とした。

区間区分	区間区分の理由
A区間：河口～2.5km	感潮区間
B区間：2.5～6.1km (ファブリダム地点)	河床勾配1/200以下、川幅は広く流れの緩やかな河原の発達した河道
C区間：6.1～9.3km (稲梓川合流点)	河床勾配1/200～1/100、川幅20～30m前後
D区間：9.3～15.1km (稲生沢川起点)	河床勾配1/100～1/50、川幅10～20m、早瀬も見られる山地河川



稲生沢川 河川区分図

稲生沢川における低水管理上の代表地点

代表地点	流域面積	代表地点設定理由
志戸橋 (ファブリダム上流)	58.56km ²	稲梓川合流後で、最も取水量の多い農業取水施設である。

必要流量検討項目

- 正常流量の検討にあたっては、項目別必要流量の検討項目について検討することとなっている。各項目別必要流量の検討の必要性について整理した。
- 下表より、稲生沢川では、「動植物の生息地又は生育地の状況」、「景観」及び「流水の清潔の保持」を対象に項目別必要流量を検討することとした。

項目別必要流量の検討項目

検討項目	河川の状況	検討の必要性
1 動植物の生息地又は生育地の状況	流量減によって生息・生育環境、産卵、遡上・降下への影響を受けるため、河川における生態系の保全という観点から、河川生態系の代表となる魚類を対象に検討を行う。	○
2 景観	流量減による景観への大きな影響はない。ただし、地域との関わりを考慮し、主要景観の維持・形成を図るという観点から、人の行き来が多く、人の目に触れる機会が多い場所について検討を行う。	○
3 流水の清潔の保持	稲生沢川周辺には住宅地・農地が広がっており、渇水時の水質悪化が懸念される。	○
4 舟運	舟運は行われていない。	×
5 漁業	「動植物の生息地または生育地の状況」と同様である。	×
6 塩害の防止	感潮区間では取水が行われていない。	×
7 河口閉塞の防止	河口部に砂礫の堆積はあるが、30cm超の玉石の堆積であり、渇水時の流量確保での対応は不可のため、設定しない。	×
8 河川管理施設の保護	流量減により支障をきたす施設はない。	×
9 地下水位の維持	既往の渇水時に地下水の問題は生じておらず、地下水位の低下も見られない。	×
10 観光	流量減が影響するような観光はない。	×
11 人と河川との豊かな触れ合いの確保	住民等の日常的な自然の触れ合いの場として利用されており、動植物の生息地又は生育地の状況、景観、水質が満たされれば確保される。	×

【静岡県】 稲生沢川水系：正常流量検討の概要（2）

低水管理上の目標流量として、「動植物の生息地又は生育地の状況」、「景観」、「流水の清潔の保持」を対象とし、必要流量の検討項目を設定

項目別必要流量検討（動植物の生息又は生育地の状況）

➤稲生沢川における動植物の生息・生育のために必要な水深・流速等を満足しうる流量を、期間別に設定した。

➤A区間については、感潮区間であり、潮位の影響によって必要水力条件が満たされ、魚類の生息に支障は生じないと考えられることから検討対象外とした。

代表魚種の選定

代表魚種の選定条件

（正常流量検討の手引き(案)より）

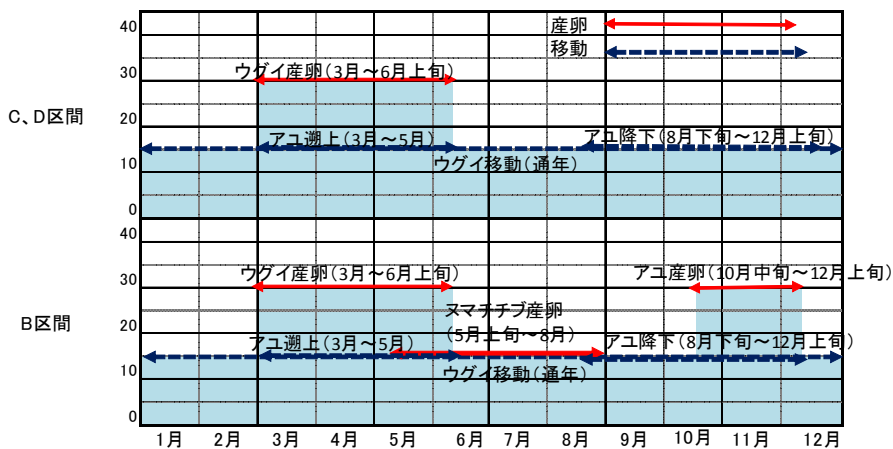
- ・瀬に産卵する魚種及び瀬に棲む魚種
- ・回遊魚等
- ・漁業対象魚種

上記に当てはまる魚種（対象魚種）の中で、生息の水力条件が最も厳しい種を代表魚種とする。

魚類	区間	摘要	選定
アユ	B～D	瀬に産卵する	○
ウグイ	B～D	瀬に産卵する	○
ヌマチチブ	B～D	回遊魚で瀬の石に産卵する	○

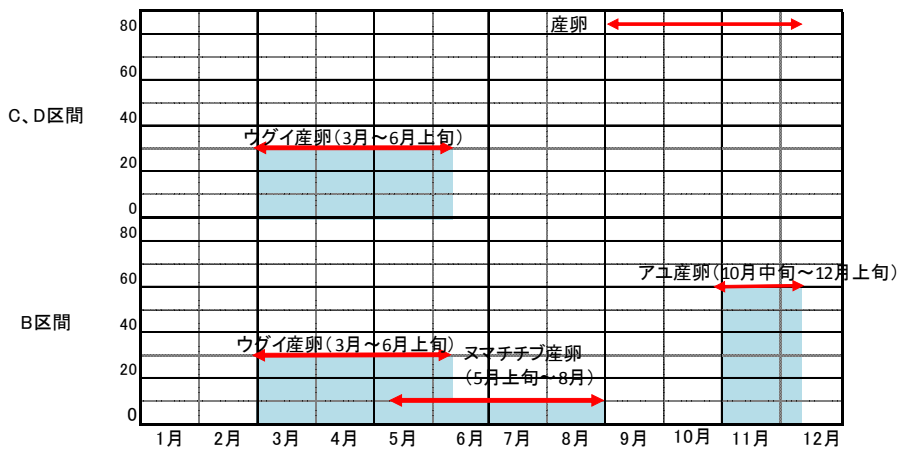
必要水深
cm

月別の代表魚種の生息に必要な水深



必要流速
cm/s

月別の代表魚種の生息に必要な流速



魚種からみた必要流量

12月中旬～2月

河川区分	検討断面	水深 (cm)	必要流量 (m³/s)	流速 (cm/s)	必要流量 (m³/s)	最大必要流量 (m³/s)
B区間	No.1 3.6km	15	0.116	—	—	0.116
	No.2 4.3km		0.103			
C区間	No.3 8.2km	15	0.204	—	—	0.204
D区間	No.4 10.9km	15	0.107	—	—	0.166
	No.5 11.8km		0.166			

3月～6月上旬

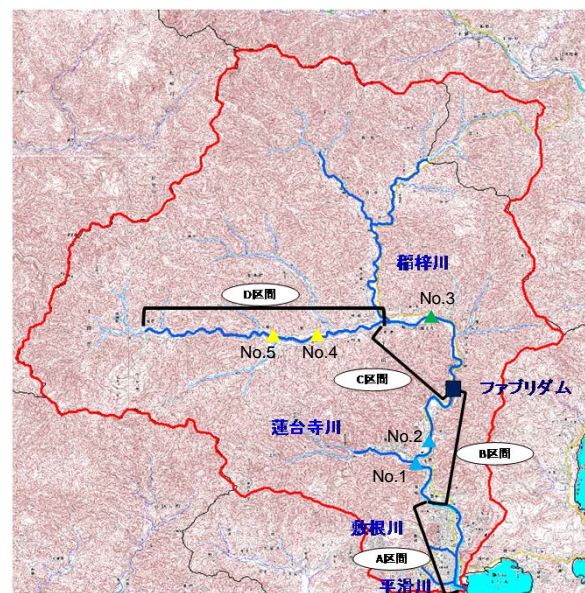
河川区分	検討断面	水深 (cm)	必要流量 (m³/s)	流速 (cm/s)	必要流量 (m³/s)	最大必要流量 (m³/s)
B区間	No.1 3.6km	30	0.737	30	0.034	0.737
	No.2 4.3km		0.599		0.041	
C区間	No.3 8.2km	30	1.272	30	0.042	1.272
D区間	No.4 10.9km	30	0.678	30	0.012	1.052
	No.5 11.8km		1.052		0.014	

6月中旬～10月上旬

河川区分	検討断面	水深 (cm)	必要流量 (m³/s)	流速 (cm/s)	必要流量 (m³/s)	最大必要流量 (m³/s)
B区間	No.1 3.6km	15	0.116	10	0.001	0.116
	No.2 4.3km		0.103		0.001	
C区間	No.3 8.2km	15	0.204	—	—	0.204
D区間	No.4 10.9km No.5 11.8km	15	0.107 0.166	—	—	0.166

10月中旬～12月上旬

河川区分	検討断面	水深 (cm)	必要流量 (m³/s)	流速 (cm/s)	必要流量 (m³/s)	最大必要流量 (m³/s)
B区間	No.1 3.6km	30	0.737	60	0.548	0.737
	No.2 4.3km		0.599		0.624	
C区間	No.3 8.2km	15	0.204	—	—	0.204
D区間	No.4 10.9km No.5 11.8km	15	0.107 0.166	—	—	0.166



検討地点位置図



アユ

出典：H20年度捕獲調査



ウグイ



ヌマチチブ

出典：川の生物図典

【静岡県】 稲生沢川水系：正常流量検討の概要（3）

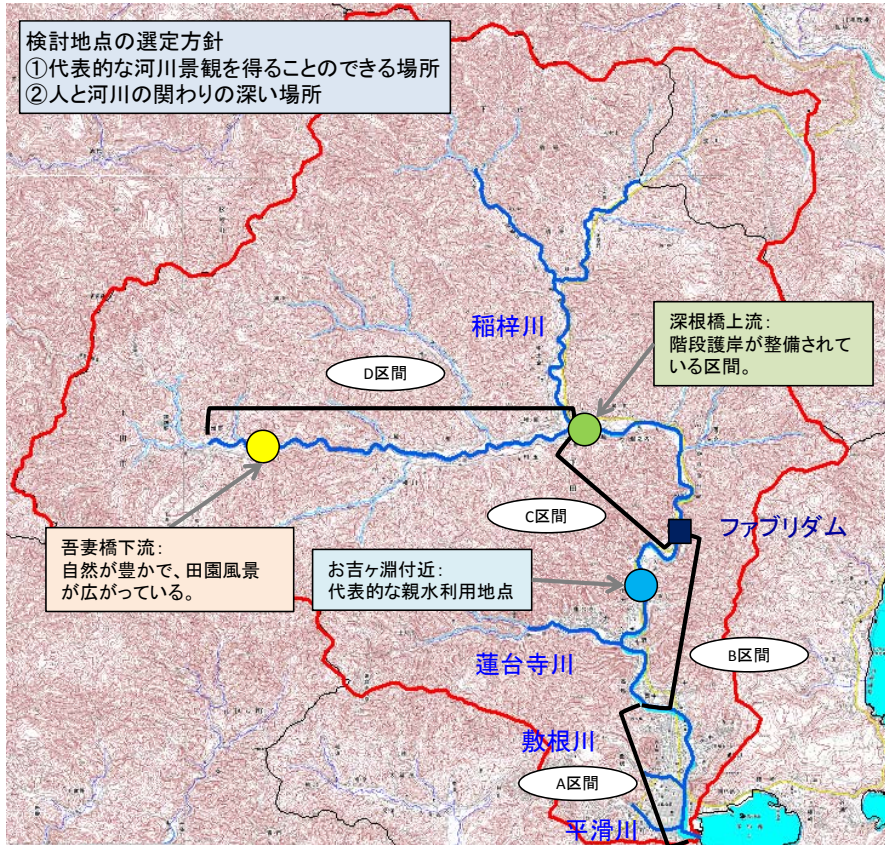
低水管理上の目標流量として、「動植物の生息地又は生育地の状況」、「景観」、「流水の清潔の保持」を対象とし、必要流量の検討項目を設定

項目別必要流量検討(景観)

➢稲生沢川の主要な景観を維持するために、河川の確保すべき水理条件を満足する流量を検討した。
 ➢A区間については、河口付近をはじめ下流域は観光客の目に留まるものの、感潮区間であり、潮位の影響によって必要な水面幅が保たれているため検討対象外とした。

検討地点の選定方針

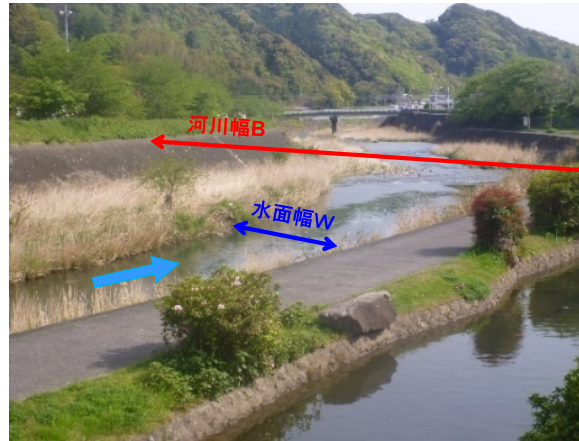
- ① 代表的な河川景観を得ることのできる場所
- ② 人と河川の関わりが深い場所



検討地点位置図

流量変化と河川景観の関係について定量的な知見が得られている流軸景（縦断方向の景観）を対象に、見かけの河川幅Bと水面幅Wが、 $W/B=0.2$ となる流量を算定した。視点は、人目に触れる機会が多く安全に川を眺めることが出来る歩道付きの橋梁または、親水空間近くの歩道とした。

4.8km付近（お吉ヶ淵付近より下流）



14.2km付近（吾妻橋下流）



9.05km付近（深根橋上流）

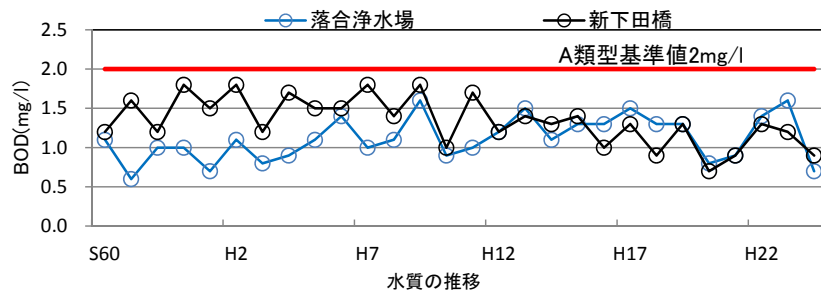


景観から見た必要流量

河川区分	検討断面	水深 (cm)	見かけの河川幅 B(m)	見かけの水面幅 W(m)	W/B	必要流量 (m³/s)
B 区間	4.8km	31	16.0	3.2	0.20	0.313
C 区間	9.05km	1	31	9.0	0.29	0.134
D 区間	14.2km	16	8.0	1.6	0.20	0.081

必要流量検討項目(流水の清潔の保持)

➢稲生沢川における河川環境や水利用の面から必要とされる水質を流域対策等とあいまって 確保するための流量を検討した。



環境基準(A類型)の2倍値を満足する流量を必要流量とする。

水質から見た必要流量(調査地点)

調査地点	流域面積 (km ²)	流出負荷量 (kg/日)	評価基準 (mg/l)	必要流量 (m ³ /s)
落合浄水場	59.02	27.43	4.0	0.079
新下田橋	75.06	34.59	4.0	0.100

【静岡県】 稲生沢川水系：正常流量検討の概要（4）

維持流量、取水、支川流入を考慮して正常流量を算定（参考値）

正常流量の検討結果

期間別維持流量

項目	期間等	期間別維持流量						
		A区間	B区間	C区間	D区間			
		0.0~2.6km	2.6~6.1km	6.1~9.3km	9.3~15.1km			
		感潮区間	順流区間	順流区間	順流区間	順流区間		
1 動植物の 生息地又は生育 地の状況	検査地点	-	3.6km	4.3km	8.2km	10.9km	11.8km	
	必要 流量	12月中旬~2月	-	0.116	0.103	0.204	0.107	0.166
		3月~6月上旬	-	0.737	0.599	1.272	0.678	1.052
		6月中旬~10月上旬	-	0.116	0.103	0.204	0.107	0.166
10月中旬~12月上旬	-	0.737	0.624	0.204	0.107	0.166		
2 景観	検査地点	-	4.8km		9.05km	14.2km		
必要流量	-	0.313		0.134	0.081			
3 流水の清潔の維持	検査地点	-	3.6km		6.1km	-		
	必要流量	-	0.095		0.080	-		
区間別 維持流量	12月中旬~2月	-	0.313 (景観)	0.204 (魚類)	0.166 (魚類)			
	3月~6月上旬	-	0.737 (魚類)	1.272 (魚類)	1.052 (魚類)			
	6月中旬~10月上旬	-	0.313 (景観)	0.204 (魚類)	0.166 (魚類)			
	10月中旬~12月上旬	-	0.737 (魚類)	0.204 (魚類)	0.166 (魚類)			

正常流量検討結果整理表

地点名 流域面積(km ²)	代表地点		
	志戸橋	比流量 (m ³ /s/100km ²)	1/10濁水流量 (m ³ /s/100km ²)
期間1	58.56	0.534	0.362
期間2		2.172	0.362
期間3		2.172	0.822
期間4		2.172	0.857
期間5		0.589	0.857
期間6		1.259	0.362

※期間区分 時期

期間	時期	取水
期間1	12月中旬-2月	非かんがい期
期間2	3月-4月19日	非かんがい期
期間3	4月20日-5月15日	代かき期
期間4	5月16日-6月上旬	普通期
期間5	6月中旬-10月上旬	普通期
期間6	10月中旬-12月上旬	非かんがい期

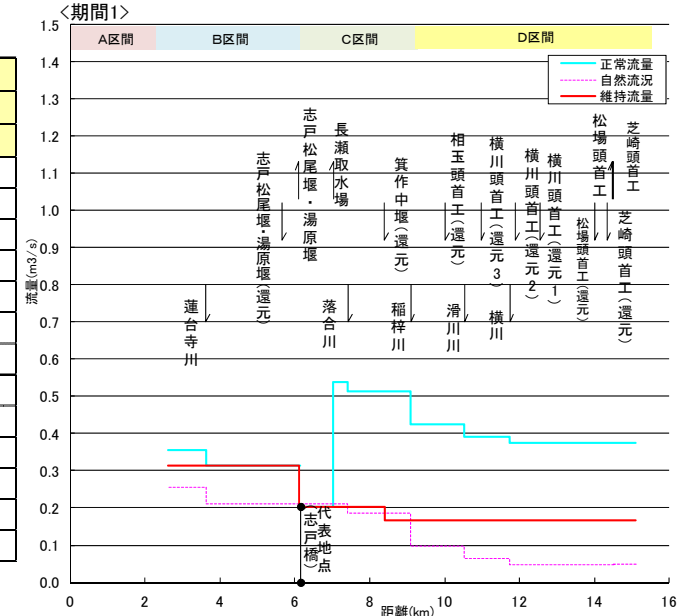
※ 正常流量の算定過程において用いた取水量及び期別については、下田市への聞き取りによる数値にて仮定した。

正常流量の設定

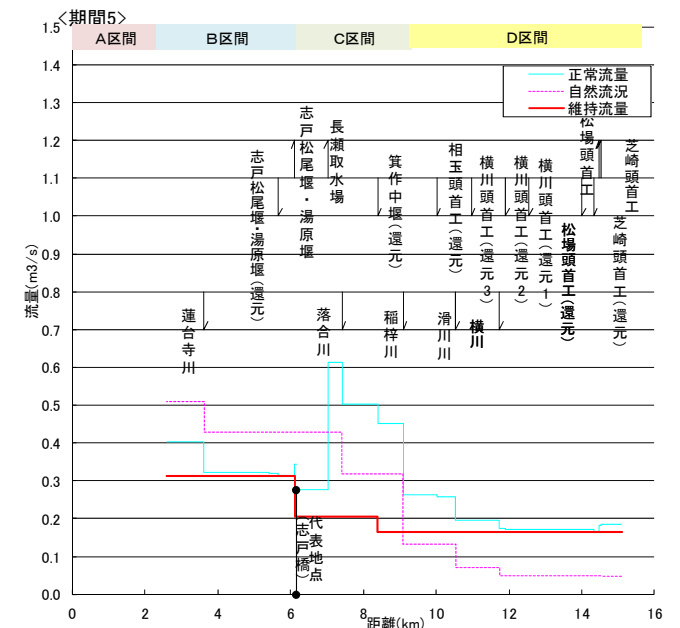
- ◆ 稲生沢川水系では、通年で流量観測が行われておらず、流量が十分に把握できない。
 - ◆ 農業用水は全て慣行水利権であり、取水実態が明らかになっていない。
 - ◆ これまでに濁水被害の報告もない。
- ⇒ 上記の理由により、現段階において、正常流量は設定しない。

今後の方針

- ◆ 今後、さらに流況等の河川における状況の把握を行い、流水の占用、動植物の生息または生育地の状況、流水の清潔の保持、景観等の観点からの調査検討を踏まえ設定する。
- ◆ 河川水の利用に関しては、今後も水利用に支障をきたさないよう、関係機関と連携し、流水の適正かつ合理的な利用が図られるよう努める。



水収支縦断面図 (12月中旬~2月)



水収支縦断面図 [(5/16~6月上旬)]